

## コーパス検索事例の配列方法について

恒川, 元行  
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/5511>

---

出版情報 : 言語文化論究. 17, pp.135-140, 2003-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院  
バージョン :  
権利関係 :

## コーパス検索事例の配列方法について

恒川 元行

### 1. 研究の計画と目的について

筆者は現在、『身体部位・身振り』に関わるドイツ語連語関係記述のための基礎的研究』（平成13～16年度基盤研究(c)(2)課題番号13610629）というテーマで科学研究費補助金を受け、収集した事例によって「身体部位語の連語関係」を具体的に記述することを目的として研究を進めているところである。その最終目的としては、連語関係を何らかの基準で整理・配列した連語データ辞典を作成する計画である。そのためには、収集された事例をどのように配列すれば、連語辞典として当該語の用法、特に連語関係がよく見えるように提示できるかを考えておく必要がある。本稿はこの点を、HITコーパス<sup>1)</sup>の一部を検索して得られたFingerの事例をもとに予備的に考察したものである。

一般に連語関係を問題にする場合、そもそも「連語関係とは何か」(Herbst 1996)、「辞書学的観点から見て平凡な語のフリーコンビネーションと興味深い連語関係の間の理論的区別は、このような事象の傾斜的性格を考えた場合保持しうるのか」(Klotz 1999:247)のような議論が行われることが多い。本研究ではしかし、当面そのような議論は念頭におかず、Finger等の身体部位語をキーワードにして得られた事例をすべて対象とし、一定の基準に基づいて整理・配列することを考えている。

その理由の一つは、筆者の関心が純粋に言語学理論的にコロケーションを定義し、その事例を提示することにあるのではなく、外国語としてドイツ語を使用する人がある語、たとえばFingerに関してドイツ語にどのような表現があるのかを簡便に知ることのできるような、実際的な事例辞典を作ることにあるということである。身体部位・身振りは、人間の自然な関心の結果として、言語表現中に豊富な連語関係を成立させている。しかしながら、現在参照することのできる辞典類、特に和独辞典には、ドイツ語を母語としない私たちが当該語を使用する場合に必要な情報の極めて限られた一部しか採録されていない。したがって、本研究の計画しているような事例データ辞典は、実際的意味を持っていると考えられるのである。

さらには、このような考え方はまた、ある身体部位に関する表現は理論的には無限に可能であるかもしれないが、実際の用例を整理すれば、ある一定範囲の中に落ち着くのではないかという仮説に基づいている。一般に、あるテキストの語彙は使用頻度の高い少数の語と使用頻度の低い膨大な数の語とから成り立っている。また、使用頻度の高い少数の語は、延べ語数で見た場合、そのテキストの相対的に広い範囲をカバーしている。したがって、このような頻度の高い少数の語を取り出すことができれば、外国語教育にも辞書編纂

にも大いに役立つことができるし、また実際、各種の語彙調査が実施され利用されている。

同様のことはまた、語が複数集まってできた表現のレベルにおいても、平行して考えることができるのではないかと思われる。すなわち、比較的少数の連語関係は、それ以外のものよりも使用頻度が高く、そのため多かれ少なかれ特徴的な「連語」として成立すると思われるのである。それは、言語によって表現される事象が現実界での人間の実際の関心と必要性を反映している（逆に、関心の対象とならないものは言語表現の対象にもならない）だろうからであるが、身体部位語の場合には身体部位という現実界の対象の特性、あるいはそれにおのずから備わっている物理的制約から、その表現の範囲が一般語彙の場合よりもさらに限定されていると予想されるのである。このような中核表現の取出しにはどの程度の規模のコーパスであればよいかは、現在のところまだ不明である。この仮説の証明は、おそらく理論的ではなく、実際の事例に基づいてのみ可能であると思われる。本研究が最終目標としている事例データ辞典は、この目的にも資するものと期待される。

## 2. 辞典における実際の用例配列

まず、ドイツ語用例辞典の一例として Duden-Stilwb. の記述における用例の配列を見ておきたい。なお、以下の分類とそれに付された番号はすべて筆者によるもので、辞書記述中に付けられているものではない。また、ここに挙げた例は、採録されている用例から筆者が任意に選択したものである。

### Duden-Stilwb. の配列

#### 1. 形容詞との結び付き

zarte, lange, schlanke *Finger* 華奢な、長い、ほっそりとした指

#### 2. 動詞との結び付き

##### 2. 1 *Finger* が主語

der *Finger* schmerzt, blutet 指が痛む、指から血が出ている

##### 2. 2 *Finger* が目的語

die *Finger* krümmen, spreizen, strecken 指を曲げる、広げる、伸ばす

#### 3. 前置詞との結び付き

einen Ring an den *Finger* stecken, am *Finger* tragen 指輪を指にはめる、指にはめている

sie hielt die Zigarette mit zitternden *Fingern* 彼女は震える指にタバコを挟んでいた

#### 4. 比喩的用法

ich habe mir die *Finger* wund geschrieben 私は手紙を書きまくった

das ist mir durch die *Finger* geschlüpft その機会を私は逃してしまった

#### 5. 慣用表現・イディオム

keinen *Finger* krumm machen 何一つしようとしな

sich<sup>3</sup> nicht gern die *Finger* schmutzig machen 自分の手を汚そうとしな

Duden-Stilwb. では、用例（文体）辞典であるだけに比較的多くの用例が採録されている。

その中で、比喩的用法が「ÜBERTR.」、慣用表現が「R」の表示によって区別され、またイディオムが記述全体の末尾に太字で列挙され、視覚的に区別されている。これに対し、それ以外の用法（上記の1～3）は基本的に上記の順で列挙されているだけで、項目が視覚的に区別されているわけではない。この他の辞典も、採録されている用例の量が異なるだけで、大なり小なりこの方向に沿って編纂されている。

これに対し、このような配列を、もっと形式的に明確な基準に基づいて行っているのが『新編英和活用大辞典』である。次に、この辞典の分類を見てみることにしたい。上記のDuden-Stilwb. の場合とは異なり、以下の分類と分類表示、番号はすべて辞書記述中に付されているものであるが、ここに挙げた例は多くの採録例から筆者が適宜選択したものである。

### 『新編英和活用大辞典』の配列

#### 1. 〈動詞＋〉

Bend your *fingers*. 指を曲げなさい

click [snap] one's *fingers* [*finger* and Thumb] 指をはじいてパチンと鳴らす

I cut my *finger* with a knife. ナイフで指を切った

have a *finger* in every pie いろいろなことに関与する；いろいろなことに余計な手出しをする

#### 2. 〈＋動詞〉

His *fingers* closed around the stone. その石を握り締めた。

His *finger* pointed at the door. 彼の指先はドアを指し（てい）た

#### 3. 〈形容詞・名詞＋〉

point an accusing *finger* at sb 人を指さして非難する

Her *fingers* were bare of rings. 彼女は指に指輪をしていなかった。

fish *fingers* (英) (魚の細長い切り身にパン粉をつけてあげた) フィッシュフィンガー

flexible *fingers* しなやかな指

#### 4. 〈前置詞＋〉

have … between the [one's] *finger* and (the) thumb 人さし指と親指で … をつまむ

the tip of a *finger* 指先

wear a ring on one's *finger* 指輪を指にはめている

#### 5. 〈＋前置詞〉

the *fingers* of both hands 両手の指

a long *finger* of light 長く伸びた一条の光

『新編英和活用大辞典』ではDuden-Stilwb. とは異なり、形式的な区別を優先しているため、比喩的用法、慣用表現、イディオム等、意味的基準による分類はなされていない。したがって、アルファベット順に配列された用例を見ていくと、異質なものが混在しているという印象を受けることがある（たとえば、上記5のthe *fingers* of both hands「両手の指」とa long *finger* of light「長く伸びた一条の光」）。これは、意味的分類の困難さを十分にわきまえた上で、形式に徹したことの結果であると考えられる。

### 3. 本研究における配列

筆者の研究では、現行の各種辞典の特徴を踏まえ、またドイツ語の特性を考慮して、上記の二方向を折衷させることが必要と考えている。すなわち、Duden-Stilwb. のように比喩的表現、慣用表現、イディオムを他の一般的表現から区別することはしない。なぜならば、それは実際においてきわめて困難であることが多いからである。したがって、以下のような「指にやけどをする」の文字通りの用法と比喩的な用法は、いずれも「2. 4 Finger が4格目的語として働いている場合」に分類されることになる。

Das kleine Mädchen [...] ergreift eine Gabel, hebt einen Deckel auf, *verbrennt sich die Finger*; [...] 小さな少女は…フォークをつかみ、ふたを開け、指を火傷し、…

Innenpolitisch kann man *sich da leicht die Finger verbrennen*. 内政面では、痛い目に会う可能性が大いにある。

他方、英語と異なり語順の固定されていないドイツ語では、『新編英和活用大辞典』の取っている動詞との前後関係による〈動詞＋〉、〈＋動詞〉のような分類が困難であるため、この点では格による区別を用いることにする。

以上から、本研究でのコーパス検索事例配列方法を具体的に示せば、以下のようになる。

#### 本研究での配列

##### 1. Finger に修飾がある場合

###### 1. 1 付加語的形容詞

mit dem ausgestrecktem Zeigefinger 伸ばした人差し指で

mit zitternden Fingern ein Buch aus dem Regal nehmen 震える指で1冊の本を書棚から取り出す

###### 1. 2 述語内容語

j<sup>3</sup> werden die Finger vom Frost beißend …<sup>3</sup> の指が寒気で刺すように痛む

die Finger sind besonders geradegestreckt 指が特にまっすぐに伸ばされている

der Ringfinger ruht abgebogen in der Handfläche 薬指が折り曲げられて手のひらの中にある

###### 1. 3 冠詞類・数詞

alle Finger wegschneiden lassen 全部の指の切断を受ける

ein normales Kind mit zehn Fingern 指が10本揃った正常な子供

zwei Finger seiner Hand heben die Plastiktüte 彼の手の2本の指がそのビニール袋を持ち上げる

###### 1. 4 2格修飾句

am Mittelfinger ihrer linken Hand 彼女の左手の中指に

zwischen den Fingern beider Hände eine Schnur zu einer Figur spannen 両手の指の間に1本の

紐を張って一つの形にする

1. 5 複合語 (Finger が基礎語)

Geigenlererinnenfinger 女性バイオリン教師の指

Vogelfinger 鳥の足のようにやせた指

\*Zeigefinger 「人さし指」, Mittelfinger 「中指」, Ringfinger 「薬指」のような指の下位区分も、ここに含める。

2. Finger が修飾要素である場合

2. 1 Finger が名詞を修飾している場合 (2格)

die Aufregung seiner Finger beim Öffnen der Briefe 手紙を開封する際の彼の指の高ぶり  
mit dem Fingernagel seines kleinen Fingers 彼の小指の爪で

2. 2 Finger が主語 (1格) として働いている場合

die Finger bluten 指から血が出ている

j<sup>3</sup> brennen die Finger von der hindurchschießenden Schnur …<sup>3</sup> は指の間を滑っていく紐のせいで指が燃えるように痛い

2. 3 Finger が3格目的語として働いている場合

den knorrigen Fingern im Manual folgen オルガンのマニュアルを動く節くれだった指を目で追う

2. 4 Finger が4格目的語として働いている場合

den Finger ablecken 指をなめる

denselben Finger ein paarmal krümmen und strecken 同じ指を一、二回曲げたり伸ばしたりする

2. 5 Finger が前置詞と関係している場合

ein Mädchen mit ausgebreiteten Armen und gespreizten Fingern 両腕を広げ指を開いた少女

einen schweren goldenen Ring mit Amethyst am Finger, lenkt sie das Auto 指にアメジストのついた重い金の指輪をはめて、彼女は車を運転している

die Joghurt-Sauce an den Fingern haben ヨーグルトソースが指についている

der Ring sitzt locker am Mittelfinger ihrer linken Hand 指輪はゆるく彼女の左手の中指にはまっている

sich<sup>3</sup> in den Finger schneiden 指を切る

sich<sup>3</sup> mit gespreizten Fingern durch das Haar fahren 広げた指で髪を梳く

die Erde zerrieselt j<sup>3</sup> zwischen den Fingern 土が崩れて…<sup>3</sup>の指の間からこぼれ落ちる

## 註

H I T コーパスの具体的内容については、池内・恒川・堀口（1997）巻末のリストを参照。

## 参考文献

Duden. Band 2: Das Stilwörterbuch. Mannheim, 2001. (= Duden-Stilwb.)

Herbst, Thomas: What are collocations: Sandy Beaches or false teeth? In: *English Studies* 77/4, 1996.

池内宣夫・恒川元行・堀口里志：anrufen における 4 格と副詞規定の交替について。「大分大学工学部研究報告」第35号，1997年。

Klotz, Michael: Jens Bahns, Kollokationen als lexikographisches Problem. In: *International Journal of Lexicography* 12/3, 1999.

新編英和活用大辞典。研究社，1995年。